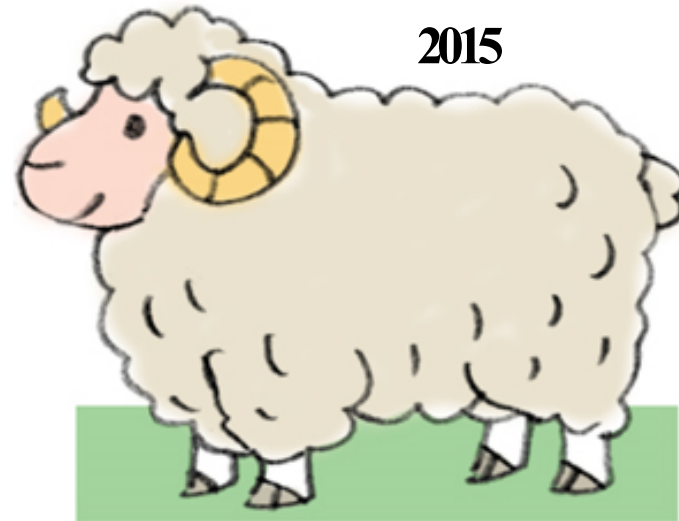


清月

6 中の出句 17 名 延べ 667 句

2015



第 179 号 平成 27 年 6 月

日常生活囁目詠俳句について

ゆたか

俳句は、①題詠②吟行囁目詠③日常生活囁目詠④心境の表現などにより作られます。今月は、③の日常生活囁目詠についてお話しします。

日常生活囁目とは、衣・食・住・労働・家事など生活事象を対象にして作句することです。俳句のルーツである和歌では、詠者が貴族や社会的に身分が高い人であったことから、労働や食べ物扱うことは賤しいこととされていて詠まれることがありませんでした。

俳句は、連句・発句・松尾芭蕉が唱えた俳諧・正岡子規が唱えた俳句と進化をしてきたが、俳句も初めは、和歌と同様に社会的に恵まれ男性の文芸として栄えたことから、労働や家事は句に詠まれることはありませんでした。

大正時代末期ころから虚子主宰のホトトギスに女性が参加されるようになって、女性により日常生活の句が詠まれるようになって、現在では性別を問わず多くの人が日常生活の句を詠み佳句を多く残されています。

日常生活の所作は、詠者読者の双方がその本質を熟知していて、句意がストレートに伝わりますので良い句材といえます。

また家庭や職場に居ても少しの余暇で句が詠めますので身近な句材ともいえます。

先月は、次のすばらしい日常生活句が出句され嬉しく拝見しました。

待兼て外干ししたる梅雨晴間

山口美琴

風鈴を吊るして今日の風を待つ

白根鈴音

以上

目次

近詠 2

雑詠選 3

寸感 9

互選集計結果報告 10

高点者 11

互選一〇句の披講 11

幹夫 恵山 11

よし子 睦夫 12

宏一 公平 実琴 13

近詠

野田ゆたか

幽玄の闇深めゆく蛍川

一村にゆき渡りたる代田水

梅雨滂沱葩閉ざして闇魔堂

旅立の心たかぶり明易し

黒南風のつゝのる気配の出漁かな

雑詠

(太字は秀句)

ゆたか選

ご祭神 偲ぶ御苑や花菖蒲 千葉 清水恵山
 夜振火の左右に別れ遠ざかる 同
 南天の花や鬼門を明るくす 同
 ジキタリス鐘吊る如く咲き昇る 同
 燕の子観察の子等口開けて 同
 大阿蘇に赤牛沈む夏野かな 千葉 田村公平
 棧橋を渡れば開く白日傘 同
 海鳥も混じる潮来の菖蒲園 同
 遠泳を励まし進む拡声器 同
 水揚げに鯨刺の舞ふ銚子かな 同

屋根低き釣月軒や青芭蕉 岐阜 石崎そうびん
 明易し戸締りをせぬ母の里 同
 シスターの会話ひそやか窓若葉 同
 人影の無き鍵屋の辻や青嵐 同
 山城の雲間に浮かび露の雨 同
 お喋りの止まぬままごとアマリリス 岡山 橋本幹夫
 代掻の安堵書込む農事暦 同
 御田鋤く力自慢の飾り牛 同
 一人や路地に入らぬ消防車 同
 廃れたる祠に平家螢飛ぶ 同
 塗り替へてゐる灯台や五月晴 三重 後藤允孝
 辛口の師匠の小言夏大根 同
 夏潮や船傾けて大漁旗 同

立札にぜひ飲まれよと山清水三重
 後藤允孝
 蛍火やせせらぎの音沈ませて
 同
 待兼て外干ししたる梅雨晴間
 三重
 山口美琴
 グラジオラス天を指して昇り咲く
 同
 美容室鏡に見ゆる夏の空
 同
 学童のバケツ稲作青田かな
 同
 蜘蛛の囿や寄り来る物は拒まぬと
 同
 風鈴を吊るして今日の風を待つ
 島根
 白根鈴音
 紫陽花の藍に深むや寺領内
 同
 神宮の雨に畳まる蛇の衣
 同
 せせらぎに風の旋律糸とんぼ
 同
 眠られぬ夜を見つめて水中花
 同
 格式の老舗ゆかしき夏のれん
 吹田
 池下よし子

をみなにて烏帽子凜々しき鶴匠かな
 吹田
 池下よし子
 あぢさゐや七坂めぐる寺の町
 同
 この先は丹波なりしか栗の花
 同
 ごはごはに乾くジーン梅雨晴間
 同
 苔の花匍匐前進カメラの目
 大阪
 木村宏一
 梅雨空や雫に映る小宇宙
 同
 夏帽子苑の迷路で跳ねてをり
 同
 入梅も顔見せなるや空の青
 同
 鶺鴒の子の急ぐ葉渡り危なかる
 同
 廃校に友情の碑や青葉風
 静岡
 渡邊春生
 せせらぎにベンチがひとつ河鹿笛
 同
 影ひとつ光る交尾の水馬
 同
 革命と恋を語りし蛍の夜
 同

首塚へ続く小径や青葉冷静岡渡邊春生
 曇天に薄紅をさし合歡の花千葉筒井省司
 雨滴紫陽花の藍深めゆく同
 記念日に一輪咲きし時計草同
 のうぜんの花咲零れ落つ空家かな同
 陽の恵みもぎて朝餉のミニトマト同
 花菖蒲江戸や伊勢やと咲き競ふ鳥取瀬尾睦夫
 ばらばらに來て注文は心太同
 雨の止み千の螢火瞬きぬ同
 幾重にも曲がる参道沙羅の花同
 黒雲の迅き流れや梅雨はじめ同
 夕焼や觀光バスが加速する愛知石川順一
 父の日は何も起こらず午後は晴れ同

あぢさゐに埋もれて御座すご本尊大阪森戸しゆじ
 園児等の内緒話やさくらんぼ愛知駒田暉風



寸感

ゆたか

ご祭神偲ぶ御苑や花菖蒲 恵山
御苑そのものには神社がないが京都御苑には苑に接して国家への功労者の神社がある。

御祭神の徳に思いを巡らせつつ歩を進めていて、花時の菖蒲池に行き着いた作者。しつとりと花菖蒲がよく効いている。

屋根低き釣月軒や青芭蕉 そうびん 芭蕉生家の裏にある釣月軒。芭蕉が、帰省の際の居所にされていたと言われている。再現された、当時の生活様式から芭蕉の暮らしぶりに思いを巡らされている作者。

釣月軒が上手に表現されている。

お喋りの止まぬままごとアマリス 幹夫 女の子が玩具などを使って炊事や食事のまねごとをするままごと遊びの景。

アマリスの花のように、暑さに負けない女の子のお喋りを耳にしている作者。ままごとの様子が詠み切れている。

塗り替へてゐる灯台や五月晴 允孝

灯台は、昼間もよく見えるように白く塗られ、色がくすむと塗り替えられる。

梅雨晴の景に、白塗りの輝きで役目を果たす灯台が頼もしく伝わってきます。

五月晴と詠みとられた点が上手い。待兼て外干ししたる梅雨晴間 美琴

梅雨期は、天気予報の洗濯指数をチェックするなど、晴間に多くのものを洗濯する。この日の洗濯に精を出された作者の成果として、白一色の干場の景が見えてきます。

日常が上手く詠み込まれている佳句。風鈴を吊るして今日の風を待つ 鈴音

風鈴は、夕刻に軒などに吊して僅かばかりの風に音色を奏でさせ涼感を演出させる。

昼間の暑さに閉口しつつ、いつものように風鈴を吊るして風を待たれている作者。「今日の風」がよく効いている。

互選一〇句の集計結果互選者一〇人

高点句

四点 廃校に友情の碑や青葉風 渡邊春生

三点 ご祭神偲ぶ御苑や花菖蒲 清水恵山

三点 南天の花や鬼門を明るくす 同

三点 出くわして日傘が回る立ち話 田村公平

三点 大阿蘇に赤牛沈む夏野かな 同

三点 グラジオラス天を目指して昇り咲く 山口美琴

三点 園児等の内緒話やさくらんぼ 駒田暉風

三点 格式の老舗ゆかしき夏のれん 池下よし子

三点 梅雨空や雫に映る小宇宙 木村宏一

高点者

九点 橋本幹夫
九点 筒井省司
八点 池下よし子
八点 後藤允孝

互選一〇句

橋本幹夫選

鶺鴒の子の鳴き声探す夕まぐれ 木村宏一
老鶯に犬吠崎の風強し 田村公平
竹叢の昼なほ昏き走り梅雨 池下よし子
はまなすや沖のフェリーに露西亜文字 瀬尾睦夫
グラジオオラス天を指して昇り咲く 山口美琴
陽の恵みもぎて朝餉のミニトマト 筒井省司
鮎鷹の直滑降の獲物かな 清水恵山
夏至告げる二見の海の禊かな 後藤允孝
伐られても伐られても大夏木かな 石川順一
籐椅子の軋みに映る父母の影 白根鈴音
清水恵山選
互選一〇句
明易し戸締りをせぬ母の里 石崎そうびん
夕焼や観光バスが加速する 石川順一
黄昏れて花鬼灯に雨の降る 橋本幹夫
くちなしを孫に教へし香かな 池下よし子
鳥の来て南天の花降り灌ぐ 山口美琴
楊貴妃の白き睫毛か未央柳 筒井省司
廃校に友情の碑や青葉風 渡邊春生
出くわして日傘が回る立ち話 田村公平
山に雨海に風呼ぶ男梅雨 後藤允孝
咲き揃ふ紫ゆかし花菖蒲 瀬尾睦夫

互選一〇句

池下よし子選

あぢさゐに埋もれて御座すご本尊 森戸しゅじ
安曇野の水の匂へる梅雨入かな 石崎そうびん
魂の限りに蜘蛛の糸 橋本幹夫
グラジオオラス天を指して昇り咲く 山口美琴
南天の花や鬼門を明るくす 清水恵山
陽のめぐみもぎて朝餉のミニトマト 筒井省司
大阿蘇に赤牛沈む夏野かな 田村公平
草刈つて子ども神輿を通しけり 渡邊春生
山に雨海に風呼ぶ男梅雨 後藤允孝
はまなすや沖のフェリーに露西亜文字 瀬尾睦夫
瀬尾睦夫選
互選一〇句
お喋りの止まぬままごとアマリリス 橋本幹夫
格式の老舗ゆかしき夏のれん 池下よし子
園児等の内緒話やさくらんぼ 駒田暉風
明易し戸締りをせぬ母の里 石崎そうびん
ご祭神偲ぶ御苑や花菖蒲 清水恵山
曇天に薄紅をさし合歓の花 筒井省司
大阿蘇に赤牛沈む夏野かな 田村公平
塗替へてゐる灯台や五月晴れ 後藤允孝
梅雨空や雫に映る小宇宙 木村宏一
グラジオオラス天をめぐして昇り咲く 山口美琴

互選一〇句

森戸しゅじ選

梅雨空や雫に映る小宇宙 木村宏一
園児等の内緒話やさくらんぼ 駒田暉風
屋根低き釣月軒や青芭蕉 石崎そうびん
代掻の安堵書込む農事暦 橋本幹夫
あぢさゐや七坂めぐる寺の町 池下よし子
待兼て外干したる梅雨晴間 山口美琴
ご祭神偲ぶ御苑や花菖蒲 清水恵山
大阿蘇に赤牛沈む夏野かな 田村公平
廃校に友情の碑や青葉風 渡邊春生
風鈴を吊るして今日の風を待つ 白根鈴音
筒井省司選
互選一〇句
端山に夕陽かかるや朴の花 石崎そうびん
夏帽子花の迷路で跳ねてをり 木村宏一
南天の花や鬼門を明るくす 清水恵山
あぢさゐや七坂めぐる寺の町 池下よし子
美容室鏡に見ゆる夏の空 山口美琴
ばらばらに來て注文は心太 瀬尾睦夫
廃校に友情の碑や青葉風 渡邊春生
夏至告げる二見の海の禊かな 後藤允孝
玉簾くぐり同窓生の顔 橋本幹夫
出くわして日傘が回る立ち話 田村公平

互選一〇句

木村宏一選

あじさみに埋もれて御座すご本尊 森戸しゅじ
 代掻きの安堵書き込む農事歴 橋本幹夫
 格式の老舗ゆかしき夏のれん 池下よし子
 美容室鏡に見ゆる夏の空 山口美琴
 南天の花や鬼門を明るくす 清水恵山
 記念日に一輪咲きし時計草 筒井省司
 出くわして日傘が回る立ち話 田村公平
 影ひとつ光る交尾の水馬 渡邊春生
 辛口の師匠の小言夏大根 後藤允孝
 花菖蒲江戸や伊勢やと咲き競う 瀬尾睦夫

互選一〇句

田村公平選

万歳の子をぶら下げて大茅の輪 橋本幹夫
 反戦の声聞きにゆく光晴忌 橋本幹夫
 夏潮や船傾けて大漁旗 後藤允孝
 父の日の子らより受くる感謝状 池下よし子
 父の日や変わり事なき老い一人 筒井省司
 伐られても伐られても大夏木かな 石川順一
 栗の花空家の多き村となり 春生
 手術後の歩行訓練夏帽子 筒井省司
 潮風を夕餉の膳に初鯉 筒井省司
 シスターの会話ひそやか窓若葉 そうびん

互選一〇句

山口美琴選

梅雨空や雲に映る小宇宙 木村宏一
 園児等の内緒話やさくらんぼ 駒田暉風
 シスターの会話ひそやか窓若葉 石崎そうびん
 一枚の植田に千の風が乗る 橋本幹夫
 格式の老舗ゆかしき夏のれん 池下よし子
 ご祭神偲ぶ御苑や花菖蒲 清水恵三
 曇天に薄紅をさし合歓の花 筒井省司
 廃校に友情の碑や青葉風 渡邊春生
 情熱の身を焦がしたる花石榴 後藤允孝
 ばらばらに來て注文は心太 瀬尾睦夫

インターネット俳句 清月
 第179号
 平成27年6月中の出句から

発行
 平成27年7月20日

主宰 兼 編集
 野田ゆたか

発行所
 枚方市 大阪清月庵

清月俳句会のホームページ
<https://haiku575.info/seigetukai/home/homu.htm>